

●炭焼きの窯出し

雨天で延期されていた炭焼きの窯開きを4月24日の午後に行いました。当日は大人15名、子ども12名で、家族での参加が6家族あり、大変賑やかな活動になりました。収穫はみかん箱に5Kgずつ詰めて22箱、110Kgになり、炭化せずに燃え残ったツメと呼ばれる物も5箱できました。9日間燃やし続けたのに炭化できない部分が残ったのは、材料が乾燥したヤナギで火力が十分でなかったことや、材料の詰め方が悪かったからだと思われそうですが、煙突上部の温度を測定していて、十分に上がりきっていないことがわかっていたのに、9日間も燃やし続けたのだからと辛抱できずに窯を閉じたのも原因です。子どもたちも炭を運んだり、切ったり、また箱詰めした箱を小屋に運んだりととても頑張ってくれました。

炭の運び出し後は、窯を閉めてみんなで排水用の溝を掘りました。

空気調節や原木の詰め込み方など、今後沢山経験を積みねばならない課題を学んだ炭焼きでした。



●山城広域振興局 交響プロジェクト

今年2020年度の京都府の交響プロジェクト交付金の完了報告書類に多くの説明不十分なところがあり訂正箇所が見つかり、かなり直しましたが不十分でした。再度訂正箇所の指摘でしたが、これ以上の訂正は無理と返事をしました。これ以上の訂正が必要でしたら減額措置で決定をお願いします。現在のところ2021年度の交付申請についてあまりにも複雑なので、見送るべきという意見もかなりの理事から出て、あまり無理をしない方がいいのではないかとの声が上がっています。

●淀川河川事務所と契約できる

国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所から2021年度の木津川生育植物調査管理業務の業務契約が結ばれました。内容は木津川堤防の0m地点から木津川市加の町までの24kmの両岸に生育する絶滅危惧種の生育調査とその周辺の雑草の除草管理40ヵ所16000㎡を担当することです。広い距離と多い個所そして生育調査の実施など大仕事です。4年前から受注が始まり、毎年植生の管理に当たってきました。一か所しかないイヌハギは株数が増えました。またマキエハギも効果が出てきたのか元気になりました。草刈りがうまくできたのかカワラサイコも株数が少し増え始めました。地味で見栄えのしない作業で真夏の暑さに耐えなければならない作業の繰り返しですが、里山の会の独壇場ですので、みんなで力を合わせ、頑張る貴重な植物保存に今年も役立ちたいと思います。

●結成 25 周年記念①記念誌②年表③活動記録誌の三部が完成

昨年すべて準備してきましたが、理事長と常務理事が揃って脳梗塞によって倒れ長期の入院治療が必要となってストップしてしまいました。幸い 1 月過ぎに退院となり作業を再開することになって三種類の発行書類が出来上がりました。会員の皆さんには 25 年間の年表をお届けすることにしてあります。1996 年 5 月 11 日に会員数 123 名で発足し甘南備山の登山で初めて植物観察を行いました。それ以後 25 年間の活動を継続し、数々の成果や記録を発行してきました。こうした経過がわかりやすく掲載されていますし、まとめられていますこれも多くの会員の皆様のご支援ご協力の賜物でよくもここまで来られたものと深く感謝申し上げます。できるだけ早くお手元にお届けさせていただきたいものです。コロナウイルス渦の下、ご家庭で思い出のひと時の話題にしていだければと思っています。

年表以外にも会誌「里山の自然」にご登場願ってきました先生方の含蓄ある巻頭の言葉を中心にまとめた「活動紹介記念誌」A4 判と 25 年間のイベントのスポット写真を掲載した「活動記録誌」A3 判も出来上がります。ご希望があれば、少し時期は遅れますが原価で提供させていただきますので事務局までお電話いただけましたら幸いです。なお[木津川生育植物写真集]A4 判 660 ページも出来上がりました。私ども里山の会が総力を挙げた木津川に生育している植物の花の写真集で至極の作品であります。国会図書館などに寄贈予定するものでございます。これもご希望いただく場合は 5 月 31 日までなら 5 万円のところ 4 万円でご注文をお受けいたします。

●2020 年度総会第 3 回理事会 28 日開催

カレンダーも変わり 2021 年度となり里山の会は、世話役理事の任期切れで新体制を組み会上げなければならない時期になっています。25 年の長きにわたりご活躍いただいた皆さん、図らずも発病など予期せぬ理由から勇退を決意された皆さんが多数おいでになりました。その一方更に「自然を大切に作る仲間に輪を大きくする」決意に燃える皆さんもおいででございます。ご都合もおありの中、また公私御多忙の中ご依頼申し上げに参りました折にはぜひこころよくお引き受けいただきますようお願い申し上げます。4 月 28 日午後から理事有志によって総会の段取りの打ち合わせを行いました。

●竹蛇籠への工夫 シリー 8 回

初回の取組では原小組さんが一手に引き受けてくれたので胴体部分の手伝いを言われるままに動いておれば蛇籠ができあがっていました。2 回目の 2017 年は、自力で底部を作り上げなければなりませんので非常な苦勞の繰り返しになりました。何度試みてもうまくできないのです。竹蛇籠製作にかかわったものとして最大の難仕事でした。小さいモデルで練習するとできるのですが、いざ 8m の現物で行うと難しく非常に苦勞しました。最初の部分を組み上げるのに時間がかかりました。スタッフがああでもないこうでもないとそれぞれ言い合いながら組みあげていきますが、底辺部分が出来上がって次に柱を加えると行き詰まります。最初にやりやり直し、しかし原因を明確にできていないので同じ失敗の繰り返しになります。声もだんだん大きくなり何度も何度も繰り返しになって疲れ果ててしまうことも度々ありました。とにかくあきらめず粘り強く失敗を繰り返しながら底の部分を 54 本作り上げました。最後に 2 本をドッキングさせて長さを調節して 4m 物に仕上げることにしました。原小組さんに静岡からお越しいただいて中聖牛の骨組みを組んでいただいて竹蛇籠が完成となりました。